

令和 6 年度 事業報告書

社会福祉法人こまつ育成会

令和 6 年度の運営及び事業所別の活動実績は、以下のとおりです。

1 法人全体の概要

(1) 充実した福祉サービスの提供

本法人は、障害者・児の福祉サービスの充実を目指し、令和 6 年 4 月に新入社員を迎え、本人・保護者の立場に立ち各種サービスの提供を行った。職員確保の面では予断を許さないが今後とも新規職員の採用に努めたい。

施設整備の面では、サービスセンターおおぞら移転新築事業は、国の令和 6 年度補正予算に計上され計画どおり進捗している。しかしながら、令和 6 年 1 月の能登半島地震によるさくら施設の取壊し、事業所移転を余儀なくされたことは大きな出費であった。

サービス提供については、さくら、あしだ、いとまち、おおぞら、ふれんどの 5 つの拠点において、相談、障害者就業・生活支援、生活介護、就労継続支援 B 型、児童発達支援、放課後等デイサービスの福祉サービスを提供した。

サービス別利用では、相談支援事業所こまつの計画相談支援件数が昨年度に比べ増加し、利用人数では、あしだ B 型、ふれんどが増加、いとまちはほぼ同数であったが、サービスセンターおおぞらさくら分場の廃止等により、計画相談支援件数を含めた法人全体では 1.5% (278 人) 減の 18,332 人であった。

決算では、法人全体の経常増減差額は約 2,488 万円となり黒字を確保できたものの、昨年度に比べ 20.7% (649 万円) の減少となった。

今後も引き続き、人口減少による働き手不足、賃金の引上げ、諸物価の高騰など様々な社会的要因により、経営という視点がますます重要になってくると思われる。

(2) 事業所と実施事業

令和 6 年度に当法人が運営した事業所で提供した事業は、以下のとおりである。

① 拠点さくら

ア こまつ障害者就業・生活支援センター(障害者就業・生活支援、一般就労支援)

イ 相談支援事業所こまつ(障がい児・者相談支援)

② 拠点あしだ(生活介護・定員 20 人、就労継続支援 B 型・定員 20 人、日中一時支援)

③ 拠点いとまち(児童通所支援(児童発達支援、放課後等デイサービス)・定員 10 人、障害児タイムケア、日中一時支援)

④ 拠点おおぞら(生活介護・定員 20 人、日中一時支援)

⑤ 拠点ふれんど(児童通所支援(児童発達支援、放課後等デイサービス)・定員 10 人、障害児タイムケア、日中一時支援)

(3) 主な固定資産の取得・廃棄

取得資産	(おおぞら)	車両	日産セレナ	4WD／AT	8人乗り
廃棄資産	(さくら)	建物	桜木町96番地2	鉄筋コンクリート造陸屋根4階建	法人本部2棟 794.10 m ²

(4) 職員の資質向上の取り組み

- ① サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者
基礎研修・実践研修を受講
- ② 職場内研修 (OJT)
外部講師による全職員を対象とした研修、初任者研修、職場間交流研修を実施
- ③ 職場外研修 (OFF-JT)
石川県社会福祉協議会等の対面・オンライン研修を受講
※各種専門職研修、虐待防止・権利擁護研修等

(5) 職員数

令和6年度末の職員数は、常勤46人、非常勤21人の計67人で、昨年度と比較し4人の減である。

2 拠点さくら

(1) こまつ障害者就業・生活支援センター

① 障害者就業・生活支援センター事業

ア 障がい者の相談状況

登録障がい者数	972人
相談支援件数	2,822件
職場実習のあっせん件数	11件
就職件数	47件
事業主に対する相談支援	764件

※ 主な相談内容

- (1) 求職相談、(2) 職場定着相談、(3) 職場の人間関係、(4) 就業に向けた家庭支援、
(5) 生活上の相談、(6) 離職後の再就職の相談 など

イ 関係機関との連絡会議の開催

3月24日に石川労働局、石川県労働企画課、同障害保健福祉課など各行政機関等と就労支援関係機関連絡会をオンライン形式で開催し、令和6年度の当センターの事業実施状況や令和7年度に向けた課題、南加賀就労支援強化連絡会の取組内容等について報告・協議を行った。

ウ 個別支援会議

就労、生活上の課題に対し、行政機関、関係機関等の職員を含めた今後の支援のあり方や支援の役割を確認するための個別支援会議を必要に応じて開催した。

エ 職場定着促進のための在職者の交流活動の実施

在職者交流活動を4回対面にて実施した。

オ 求職者向けのピアサポート活動を1回実施した。

② はたらく障がい者応援事業

就業・生活支援員を配置し、障がい者からの多様な相談に応じた指導・助言その他の援助、事業主に雇用管理に係わる助言、職業準備訓練・職場実習のあっせんを行った。

③ その他事業

南加賀就労支援強化連絡会

南加賀地区の行政、福祉施設、企業によるネットワークを構築し、障がい者の就業に向けての障がい者就職応援セミナー（相談会）の開催や、障がい者の地域理解の向上を目的に「働く障がい者情報誌クローバー」第 26 号の発行などを行った。

(2) 相談支援事業所こまつ

① 地域相談支援、計画相談支援、障がい児相談支援

施設や病院から地域生活へ移行するための相談支援、サービス等利用計画作成等に係る相談支援及び障がい児相談支援を行った。

ア 地域相談支援 地域移行支援及び地域定着支援・・・ 0 件

イ 計画相談支援

サービス等利用計画書の作成・・・・・・・・・・・・ 231 件

サービス等利用計画書のモニタリング・・・・・・・・ 412 件

ウ 障がい児相談支援

障害児支援利用計画書の作成・・・・・・・・・・・・ 47 件

障害児支援利用計画書のモニタリング・・・・・・・・ 60 件

② 障害者相談支援事業

小松市より障害者相談支援事業を受託し、常勤の相談支援専門員 1 人を配置し、次の支援を行った。

ア 障がい者の相談状況

実人数	身体障がい	重症心身障がい児・者	知的障がい	精神障がい	発達障がい	高次脳機能障がい	その他	合計
	36	0	169	100	11	1	16	333

上記の障がい者に対し、合計 4,680 件の相談・支援を行った。

イ 主な相談内容

福祉サービスの利用について、各種手続きの支援（障害者手帳の申請、障害者基礎年金の申請等）、通院同行、在宅生活の維持について等

ウ 他機関との連携

他の相談支援事業所、福祉サービス事業所、行政、学校等と連携し、個別支援会議を開催した。

エ 障害支援区分の認定調査

小松市からの委託を受け、計 57 件の障害支援区分認定調査を実施した。

オ 相談支援の技術を向上させるため、各種の研修に参加した。

③ 相談支援機能強化事業

- ア 小松市から相談支援機能強化事業を受託し、主任相談支援専門員及び相談支援専門員現任研修を修了した職員等を配置して、困難ケースへの対応、指定相談支援事業所等への指導・助言を行った。
- イ 小松市障害者自立支援協議会運営への協力
事務局運営に関する協力及び精神障がい者等地域生活支援研究会、医療的ケア児のための関係機関検討部会、テーマ別チーム活動等に参加した。
- ウ 地域生活支援拠点事業に参画し、障がい者相談支援センターと連携協力し、総合的・専門的な相談支援を行った。
 - ・相談支援体制の強化への取組み（連携支援会議への参加 50回、人材育成他）
 - ・地域生活支援拠点事業における24時間緊急体制についての対応 0回
- エ 権利擁護、虐待防止に関する取組み

3 サービスセンター あしだ

(1) 令和6年度の利用状況等（利用登録人数は3月末現在）

実施事業	定員	利用登録人数	延利用人数	営業日数	備考
生活介護	20	32	5,587	252	1日平均22.2人
就労継続支援B型	20	17	3,558	252	1日平均14.1人
日中一時支援	—	1	4		

(2) 支援の内容

① 生活介護

本人の情緒安定と生活の充実を第一に考え、様々なコミュニケーション手段を利用して信頼関係作りに努めた。排せつ、歯磨き、食事、水分補給等の介助を行いながら、趣味の充実や社会参加の意欲を高める作業として、箱折り、角あて、封入、チラシのシール貼り、外部委託作業（プランター花の苗植替え）、缶バッジ制作、手芸、工作等、利用者の能力に応じた生産・制作を支援した。その他、歩いて行く買い物・ウォーキング・リズム体操で体力の向上を図り、会食・調理実習・おやつ作りで食を楽しみ、音楽の先生を招いた「野に咲く花の会」やお茶会の先生を招いた「お茶会」等を行い、個々の感性や個性の充実を図った。

また、施設内での部署間の隔たりを無くす合同行事を数回実施し、共生社会への参加に向けた社会性の育成を図った。

② 就労継続支援B型

就労に必要な知識及び能力の向上を図る訓練や支援を行うとともに、就労に向けた情報の提供を行った。また、自立した社会生活を目指すための生活改善の相談や手助けを行った。具体的には、施設内での作業は、古紙リサイクルステーションの運営（小松市委託事業）、飲料容器回収作業、箱折り、ハーネス作業を行うなど、多様な作業体験を通して就労に向けた経験の蓄積を行った。なお、季節による箱折り

の注文数の変動が少なかったことで、前年度より収入が増加した。

また、月1回のカルチャーディを設け、文化体験や自ら健康への意識を高め健康管理を行うために体力作りを兼ねたウォーキング、軽スポーツ、ゲーム等を行った。

- ③ 日中一時支援 利用者のニーズに合わせた余暇を充実させるための活動と支援を行った。

- (3) 苦情受付等 なし

- (4) その他

- ① 小松特別支援学校高等部の生徒を実習生として3名、金城大学生の施設内実習を2名受け入れた。
- ② 小松特別支援学校中部の生徒4名をわくワーク体験に受け入れた。
- ③ 緊急時の対応のため、避難訓練を2回行った。
- ④ 災害に備え、職員全員で小松市指定避難所（小松市武道館）を見学し、避難にあたっての課題や問題点を洗い出した。

4 サービスセンターいとまち

- (1) 令和6年度の利用状況等（利用登録人数は3月末現在）

実施事業	定員	利用登録人数	延利用人数	営業日数	備考
児童発達支援	10	13	395	285	1日平均1.4人
放課後等デイサービス		28	2,647		1日平均9.3人

- (2) 支援の内容

- ① 児童発達支援 親子通所による個別療育を実施した。
発達支援センターえぶりと協力し、通所する保育所の保育指導を個別療育の参考とした。

- ② 放課後等デイサービス 日常生活の基本動作の指導（手洗い・うがい・トイレトレーニング・衣服の着脱等）、集団生活や他の事業所と交流の場において適応訓練（挨拶・コミュニケーション・ルール・生活マナー等）の療育を行った。また、集団活動では、クッキング・お出かけ・制作・音楽会・誕生会・季節行事・食事会・買い物体験等の活動を行った。
普段身体を動かす機会が少ないため、トランポリン教室を開催した。
地域活動（クリスマスコンサート、ひな祭り）に参加し、適応訓練の療育を行った。

- (3) 苦情受付等 なし

- (4) その他

- ① 必要に応じて、相談支援専門員、病院・行政機関等の関係者が集まって支援会議を行った。
- ② 緊急時の対応のため、避難訓練（地震・火災）を行った。また、児童がスムーズに行動できるよう日常的な行動理解と指導訓練を繰り返し行った。

- ③ 小松警察署から交通ルールを学んだ。
- ④ 女性消防団から紙芝居を使った防災教育を受けた。
- ⑤ 小松市トランポリン協会から講師を派遣してもらい、毎月第一・第三土曜日にトランポリン教室を開催した。

5 サービスセンターおおぞら

- (1) 令和6年度の利用状況等（利用登録人数は3月末現在）

実施事業	定員	利用登録人数	延利用回数	営業日数	備 考
生活介護	20	21	3,292	252	1日平均13.1人

- (2) 支援の内容（生活介護）

- ア 相談・援助 普段の様子、気になる行動の対処法、スムーズな通所、調子の悪い利用者の原因や対処法、病気予防のための運動や食事等についての相談、援助を行った。
- イ 指導 調理実習、掃除、お茶当番、入浴、歯みがき、生理時の処理等の指導を行った。
- ウ 教養娯楽 日常生活の充実及び情緒の安定を目指し、音楽教室、ぼっちゃ・グラウンドゴルフほかニュースポーツ体験、誕生会（テイクアウト、外食）、おやつ作り、お花見、工作を通じた創作活動等を行った。
その他夏祭り、クリスマス会、節分等の季節行事も行った。
- エ 作業指導 箱折り、ペットボトルのラベルはがし、廃紙のシュレッダー等の作業を通じて、仕事の意欲、態度、技術等の指導をした。
- オ 社会生活上 買物、初詣、アート展見学等公共の場でのルール・マナーを指導した。
便宜の供与
- カ 送迎サービス 利用者の希望により、自宅と事業所間の送迎サービスを行った。

- (3) 苦情受付等 2件

- (4) その他 緊急時の対応のため、避難訓練を2回行った。

6 こども通所センターふれんど

- (1) 令和6年度の利用状況等（利用登録人数は3月末現在）

実施事業	定員	利用登録人数	延利用人数	営業日数	備 考
児童発達支援	10	8	137	240	1日平均0.6人
放課後等デイサービス		24	1,887		1日平均7.9人

- (2) 支援の内容

- ① 児童発達支援 親子通所による個別療育を実施した。
保育所と連携するために、保育所訪問を行った。
母子支援が必要な家庭に対する家族支援を行った。

- ② 放課後等デイサービス 日常生活の基本動作の指導（手洗い・うがい・排せつ・衣服の着脱等）、集団生活への適応訓練（挨拶・コミュニケーション・ルール・生活マナー等）の療育を行った。また、集団活動では、クッキング・お出かけ・制作・DVD鑑賞・社会見学・防災体験・誕生会・食事会・買い物体験等の活動や、他の放課後等デイサービスとの交流会を行った。

その他、ジェイ・バス（株）ボランティアの会（あしたば会）と地域交流を行った。

- (3) 苦情受付等 なし

- (4) その他

- ① 緊急時の対応のため、避難訓練（地震・火災）を2回行った。
- ② 必要に応じて、相談支援専門員、病院・行政機関等の関係者が集まって支援会議を行った。
- ③ 発達障害支援アドバイザーの派遣を受け、支援者の視点や特性理解、ケース記録のとり方のアドバイスを受ける。